

# 学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.5 平成25年11月25日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

9月30日 厚生連新潟医療センター見学

- 1 あいさつ・職員紹介・オリエンテーション
- 2 見学 C3病棟(泌尿器科、整形外科、血管内科) 放射線科  
リハビリテーション科
- 3 講話 リハビリテーション科：理学療法士  
放射線科：診療放射線技師  
看護部：看護師
- 4 質疑応答・まとめ



いいんですか？



モニターがずらり

放射線科では、普段あまり見ることができない診断装置を何種類(RI、X線、CT、心血管撮影、MRI)も見せていただきました。診断目的によって機器を使い分けたり画像の濃淡のつけ方が違ったりと、初めて知ることがたくさんありました。

リハビリテーション科では実際にリハビリをしている様子を見学させていただきました。ケガでお世話になることも多い運動部の生徒は特に興味を持っていたようです。今は手術翌日からリハビリに入ること、1人1人異なるメニューも効果をあげるには患者さんの気持ちが大変だとうかがいました。



作業療法室では患者さんの作品が

C3病棟(整形・泌尿器・血管内科)は新潟医療センターの特徴ともいえる病棟です。ナースコールが頻繁に鳴り、臨場感あふれるナースセンターで、看護師さんが仕事の流れを話してくださいました。「痛み」を取り除くこと、「不安」を取り除くことが重要、つまり患者さんから何が不安なのかを聞き取り、それに対してきちんと答えることが大切とのことでした。

患者さんを中心に様々な科が連携する中、スタッフ間のコミュニケーションの大切さを痛感しました。放射線技師も、声がけひとつが放射線対

しての不安を和らげるので、やはり機械ではなく「人」が相手なのだと教わりました。

この日の様子は、病院の広報誌『新潟医療センターニュース』にも掲載されました。

\*\*\*生徒の感想より\*\*\*

漠然としていたイメージを変えてくれたのは「リハビリとは身体的に回復するだけでなく、精神的な回復も目指す」という言葉です。実際に働いている方々の現場の声は毎回大きな驚きと発見があります。皆さんにとっても丁寧に説明していただきました。医療の仕事にはとても多くの職種・業務があることがわかりましたし、笑顔の方が多かったのも印象的でした。

# 11月14日(木)1学年対象医療講演会

講師：新潟青陵大学 医療福祉心理学部 看護学科教授 池田かよ子先生

医療専攻2期生となる1年生  
15名が初めて集まるこの講演会に、「いのちの授業」として先輩にも強い印象を残した池田先生を、今年もお招きすることができました。

- |               |
|---------------|
| 1 ブレーンストーミング  |
| 2 看護に必要な心構え   |
| 3 誕生学「いのちの授業」 |

新潟青陵大学は、看護を学べる4年制大学として、西高生にも人気の高い大学であり、看護系受験をめざす3年生も参加しました。



1 「コンビニ で連想する言葉は？」緊張気味の生徒たちの心を柔らかくほどいてくださるようなグループワークによって、笑顔のスタートです。そして「看護 で連想する言葉は？」

2 看護する者に必要な心構えとして、その根幹には「生命尊重・人間尊重」の精神があり、そこに「知識（Head）技術（Hand）態度（Heart）」の3つのHを兼ね備えることが必要である。たとえば清拭一つでも、ただ拭くのではなく、老人・成人・青年や子供、それぞれに異なる肌の質に応じて沐浴剤を選んだり、力の入れ方を考えたりする。また、「看護」の意味をあらためて確認すると、手をかざしてよく「みる」と「まもる」の意味を併せ持つ看護、他者を見守り、保護し、成長・発達・生活に關与する Nursing、そして世話や気遣いの相互作用である Care の3つの側面が考えられる。とのお話をいただきました。「看護」の資格としては、国家資格である看護師・保健師・助産師と養護教諭の4つがあり、この中で助産師は唯一開業権があると確認します。

### 3 誕生学「いのちの授業」

「いのちの授業」は、助産師を「生む女性の力、生まれる子の力」を引き出す仕事とおっしゃる先生のご専門です。「はじまりの大きさ」が実感できるカードや豊富なスライドなど、たくさんの教材を活用し、わかりやすくお話しいただきました。さらに、等身大の人形と女性の骨盤模型を用いて胎児が通る道のりを示した上で、出産シーンも含まれるビデオ視聴となります。折々の問いかけに生徒も真剣に考え、時に涙ぐんで映像を見つめる様子がありました。



質疑応答の時間には、助産師志望のきっかけや、仕事の大変な面、看護師の責任感についてなどの質問が出るうちに、「近々出産予定の姉のために今の自分ができること」という今日のお話と直結する体験に前向きに関わろうとする話題も出ました。

池田先生からは、グループワークで出た「支える」というキーワードからのお話や、今後医療専攻で予定される病院見学へのアドバイスなどをいただいて、2時間があっという間にたっていました。

\*\*\*生徒の感想より\*\*\*

3つのHが一番心に残っています。中の2つは今からでもできることなので、身につけられるようコツコツがんばりたいです。

初めて知る看護のこと、助産のことがいっぱいありました。特に、子供が生まれるまでの成長の様子はとてもためになりました。

お腹の中で羊水をきれいにしたり、ものを見、母乳を飲む練習をしたりする赤ちゃんはすごいと思いました。

新しい生命を誕生させる素晴らしい仕事だと、先生がとても楽しそうにおっしゃるので、将来助産師という道も考えてみようと思いました。

今後も様々な講演を聴き、将来をきちんと決めたいです。